

注3

大学番号：045

[平成30年度設置]

事前伺い

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

名古屋大学大学院 生命農学研究科

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 名古屋大学
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	企画部企画課
職名・氏名	カチョウ ヒロイシ タカシ 課長・廣石 孝
電話番号	052-789-5466
（夜間）	同上
F A X	052-747-6500
e-mail	sougoukikakusitu1@adm.nagoya-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

大学院生命農学研究科

＜森林・環境資源科学専攻（博士前期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	24
6. 留意事項等に対する履行状況等	48
7. その他全般的事項	49

＜植物生産科学専攻（博士前期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	53
2. 授業科目の概要	58
3. 施設・設備の整備状況、経費	62
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	63
5. 教員組織の状況	76
6. 留意事項等に対する履行状況等	99
7. その他全般的事項	100

＜動物科学専攻（博士前期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	103
2. 授業科目の概要	108
3. 施設・設備の整備状況、経費	112
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	113
5. 教員組織の状況	126
6. 留意事項等に対する履行状況等	148
7. その他全般的事項	149

＜応用生命科学専攻（博士前期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	151
2. 授業科目の概要	156
3. 施設・設備の整備状況、経費	160
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	162
5. 教員組織の状況	175
6. 留意事項等に対する履行状況等	198
7. その他全般的事項	199

＜森林・環境資源科学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	203
2. 授業科目の概要	208
3. 施設・設備の整備状況、経費	211
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	212
5. 教員組織の状況	225
6. 留意事項等に対する履行状況等	235
7. その他全般的事項	236

＜植物生産科学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	239
2. 授業科目の概要	244
3. 施設・設備の整備状況、経費	247
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	248
5. 教員組織の状況	261
6. 留意事項等に対する履行状況等	271
7. その他全般的事項	272

＜動物科学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	275
2. 授業科目の概要	280
3. 施設・設備の整備状況、経費	283
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	284
5. 教員組織の状況	297
6. 留意事項等に対する履行状況等	306
7. その他全般的事項	307

＜応用生命科学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	311
2. 授業科目の概要	316
3. 施設・設備の整備状況、経費	319
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	320
5. 教員組織の状況	333
6. 留意事項等に対する履行状況等	346
7. その他全般的事項	347

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程) 修士(農学)	農学関係	2年	27人	54人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	27 (-) [-]	() () []	() () []	() () []	1.11倍	
志願者数	35 (-) [7]	() () []	() () []	() () []		
受験者数	32 (-) [7]	() () []	() () []	() () []		
合格者数	31 (-) [6]	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	30 (-) [6]	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.11					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	30 [-] (6)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	30 [-] (6)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	30人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	30人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			8	1					4
	研究リテラシー	1②	1			3						4
専門科目 (B類)	森林環境学特論	1③		1		2	1			2		
	森林生物学特論	1②		1		2	2	1				
	森林社会学特論	1③		1		1	1			2		
	森林資源産業化特論	1②		1		2	2			1		
	土壌学特論	1①		1		2	1	1				
	バイオマス科学特論	1①		1		2	3			2		
	木質細胞学特論	1③		1		2	3			2		
	生物材料解析学特論	1①		1		2	2	1	1			
	非線形材料力学特論	1③		1		1	1			1		
専門科目 (C類)	植物分子遺伝学特論	1①		1		1				1		4
	植物分子育種学特論	1③		1			1			1		
	園芸科学特論	1②		1		1	1			1		
	作物科学特論	1②		1		1	1					
	作物ストレス生理学特論	1②		1		2		1	1			
	植物病理学特論	1③		1		2	2			2		
	動物解剖生理学特論	1③		1		2	2					
	動物遺伝学特論	1③		1		2	1			1		2
	動物生理学特論1	1①		1			2					
	動物生理学特論2	1②		1		1	1	1	1			
	動物生殖学特論	1①		1		1	1	1				
	動物生産学特論	1③		1		1						
	応用昆虫学特論	1①		1			1	1				
	昆虫病理学特論	1②		1		1				1		
	有機合成化学特論	1①		1		1	1			1		
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1		1	1					
生物活性物質化学特論	1③		1		1	1	1					
機能性高分子化学特論	1②		1		1	1						
酵素学特論1	1②		1		1							

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	生命農学本論	1①	1							3			7
	研究リテラシー	1②	1							1			5
専門科目 (B類)	森林環境学特論	1③		1			2	1			2		
	森林生物学特論	1②		1			2	2	1		1		
	森林社会学特論	1③		1			1	1					
	森林資源産業化特論	1②		1			1	2			1		
	土壌学特論	1①		1			1						3
	バイオマス科学特論	1①		1			2	3		2			
	木質細胞学特論	1③		1			2	3		2			
	生物材料解析学特論	1①		1			1	1	1	1	1		
	非線形材料力学特論	1③		1			1			1	1		
専門科目 (C類)	植物分子遺伝学特論	1①		1									2
	植物分子育種学特論	1③		1									6
	園芸科学特論	1②		1									4
	作物科学特論	1②		1				1					2
	作物ストレス生理学特論	1②		1									4
	植物病理学特論	1③		1									4
	動物解剖生理学特論	1③		1									4
	動物遺伝学特論	1③		1									5
	動物生理学特論1	1①		1									3
	動物生理学特論2	1②		1									4
	動物生殖学特論	1①		1									3
	動物生産学特論	1③		1									2
	応用昆虫学特論	1①		1									2
	昆虫病理学特論	1②		1									2
	有機合成化学特論	1①		1									3
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1									2
生物活性物質化学特論	1③		1									3	
機能性高分子化学特論	1②		1									2	
酵素学特論1	1②		1									1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (C類)	酵素学特論2	1③		1		1	1	1					
	分子細胞生物学特論1	1①		1		2	3	1	2				
	分子細胞生物学特論2	1②		1		2	3	1	2				
	栄養生化学特論	1③		1		1	1	1					
	応用微生物学特論	1②		1		1	1	1					
	植物栄養学特論	1②		1		3							
	植物分子細胞生物学特論	1②		1		2	1						
	植物生理学特論	1①		1		1	1					1	
	植物発生学特論	1①		1			1					2	
	植物研究アプローチ特論	1③		1		2						1	
	生物分子工学特論	1②		1		1	1	1	1				
	糖鎖生物学特論	1②		1								2	
	生物情報学特論	1・2		1								1	
	農業経済学特論	1③		1			1		1				
	国際農学特論	1①		1								4	
	Basics of Bioagricultural Sciences	1・2		1			2	4	1				
	多文化共生特論1	1③		1		1							
	多文化共生特論2	2③		1		1							
	グローバルリーダー1	1③④		1		1							
	グローバルリーダー2	2①②		1		1							
グローバルリーダー3	1④		1		1								
グローバルリーダー4	2①②		1		1								
生命農学基盤実験	1・2		1		6	5	2	3					
特別講義	1・2		1										
国内実地研修	1・2		1		1	1	1						
海外実地研修1	1・2		1		1	2	1						
海外研修演習1	1・2		1		1	2	1						
専門科目 (D類)	生命農学演習1	1①②	2			10	9	2	7				
	生命農学演習2	1③④	2			10	9	2	7				
	生命農学演習3	2①②	2			10	9	2	7				
	生命農学演習4	2③④	2			10	9	2	7				
	修士論文研究1	1①②	3			10	9	2	7				
	修士論文研究2	1③④	3			10	9	2	7				
	修士論文研究3	2①②	3			10	9	2	7				
	修士論文研究4	2③④	3			10	9	2	7				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (C類)	酵素学特論2	1③		1									3
	分子細胞生物学特論1	1①		1									8
	分子細胞生物学特論2	1②		1									8
	栄養生化学特論	1③		1									3
	応用微生物学特論	1②		1									3
	植物栄養学特論	1②		1									3
	植物分子細胞生物学特論	1②		1									3
	植物生理学特論	1①		1									3
	植物発生学特論	1①		1									3
	植物研究アプローチ特論	1③		1									3
	生物分子工学特論	1②		1									4
	糖鎖生物学特論	1②		1									2
	生物情報学特論	1・2		1									1
	農業経済学特論	1③		1									2
	国際農学特論	1①		1									4
	Basics of Bioagricultural Sciences	1・2		1							1		6
	多文化共生特論1	1③		1									1
	多文化共生特論2	2③		1									1
	グローバルリーダー1	1③④		1									1
	グローバルリーダー2	2①②		1									1
グローバルリーダー3	1④		1									1	
グローバルリーダー4	2①②		1									1	
生命農学基盤実験	1・2		1			5	5	2	4				
特別講義	1・2		1										
国内実地研修	1・2		1				1					2	
海外実地研修1	1・2		1									4	
海外研修演習1	1・2		1									4	
専門科目 (D類)	生命農学演習1	1①②	2			9	8	4	3				
	生命農学演習2	1③④	2			9	8	4	3				
	生命農学演習3	2①②	2			9	8	4	3				
	生命農学演習4	2③④	2			9	8	4	3				
	修士論文研究1	1①②	3			9	8	4	3				
	修士論文研究2	1③④	3			9	8	4	3				
	修士論文研究3	2①②	3			9	8	4	3				
	修士論文研究4	2③④	3			9	8	4	3				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員へ変更により、「生命農学本論」「研究リテラシー」「森林生物学特論」「土壌学特論」「植物分子遺伝学特論」「植物分子育種学特論」「園芸科学特論」「作物科学特論」「作物ストレス生理学特論」「植物病理学特論」「動物解剖生理学特論」「動物遺伝学特論」「動物生理学特論1, 2」「動物生殖学特論」「動物生産学特論」「応用昆虫学特論」「昆虫病理学特論」「有機合成化学特論」「ケミカルバイオロジー特論」「生理活性物質化学特論」「機能性高分子化学特論」「酵素学特論1, 2」「分子細胞生物学特論1, 2」「栄養生化学特論」「応用微生物学特論」「植物栄養学特論」「植物分子細胞生物学特論」「植物生理学特論」「植物発生学特論」「植物研究アプローチ特論」「生物分子工学特論」「農業経済学特論」「Basics of Bioagricultural Sciences」「多文化共生特論1, 2」「グローバルリーダー1～4」「国内実地研修」「海外実地研修1」「海外研修演習1」の配置教員数を変更。

・助教追加により、「森林生物学特論」の専任教員等の配置に「助教1」を追加。

・教授退職により、「森林資源産業化特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。

・助教から講師への昇格により、「バイオマス科学特論」の専任教員等の配置を「助教2」から「講師2」に変更。

・助教から講師への昇格により、「木質細胞学特論」の専任教員等の配置を「助教2」から「講師2」に変更。

・教授退職、准教授退職により、「生物材料解析学特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「准教授2」から「准教授1」に変更。

・教授退職の理由により、「非線形材料力学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。

・教授退職、助教追加により、「生命農学基盤実験」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」、「助教3」から「助教4」に変更。

・教授退職、准教授退職、助教退職、助教から講師への昇格により、「生命農学演習1～4」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」、「准教授9」から「准教授8」、「講師2」から「講師4」、「助教7」から「助教3」に変更。

・教授退職、准教授退職、助教退職、助教から講師への昇格により、「修士論文研究1～4」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授9」、「准教授9」から「准教授8」、「講師2」から「講師4」、「助教7」から「助教3」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	55 科目	0 科目	65 科目	10 科目 [0]	55 科目 [0]	0 科目 [0]	65 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡			
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡				
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡				
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡				
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡				
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻			25 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点			
	生命農学研究科 森林・環境資源 科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0		
計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	24,829 ㎡		2,031 席		3,140,500 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,229 ㎡		弓道場，プール（25m×7コース），陸上競技場（400mトラック），テニスコート（11面），野球場（1面），相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場（各1か所）						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を，申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を，その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は，その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「（5）図書・設備」については，上段に完成年度の予定数値を，下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を赤字で見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお，昨年度の報告において赤字で見え消した部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11			
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14			
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.75			
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	14	—	28	博士(工学)	0.53			
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.56			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.06			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度		
(博士後期課程)	3	5	—	10	博士(工学)	0.50			
総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度		
(博士後期課程)	3	4	—	8	博士(工学)	0.87			
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度		
(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.61			
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
<u>森林・環境資源科学専攻</u> (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
<u>植物生産科学専攻</u> (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
<u>動物科学専攻</u> (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
<u>応用生命科学専攻</u> (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
<u>名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	44	修士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表

<名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 研究リテラシー 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 研究リテラシー 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		森林社会学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	柘植 尚志 <平成30年4月>
		植物病理学特論
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		森林社会学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	教授	
		植物分子育種学特論
兼任	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	松岡 信 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
		芦苺 基行 <平成30年4月> 植物研究アプローチ特論 生命農学本論
専	教授	北島 健 <平成30年4月> 糖鎖生物学特論
		服部 束穂 <平成30年4月> 植物発生学特論
専	教授	北 将樹 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
		一柳 健司 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月> 動物生理学特論2

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	松岡 信 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
		芦苺 基行 <平成30年4月> 植物研究アプローチ特論 生命農学本論
兼任	教授	北島 健 <平成30年4月> 糖鎖生物学特論
		服部 束穂 <平成30年4月> 植物発生学特論
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
		一柳 健司 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月> 動物生理学特論2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論
兼任	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー
兼任	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論
兼任	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論
兼任	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
		浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
専	教授	川北 一人 <平成30年4月> 植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
		中園 幹生 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
		池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論 生命農学本論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
		浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
兼任	教授	川北 一人 <平成30年4月> 植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
		中園 幹生 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
兼任	教授	松本 省吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
		池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論
兼任	教授	本道 栄一 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論 生命農学本論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
兼任	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論
兼任	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
		山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
専	教授	東村 博子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4
		中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー
専	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
		大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	谷口 光隆 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
		山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
兼任	教授	東村 博子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4
		中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー
兼任	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
		大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
兼任	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		国際農学特論
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論1 生命農学本論
専	准教授	犬飼 義明 <平成30年4月>
		国際農学特論
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		国際農学特論
兼任	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論1 生命農学本論
兼任	教授	犬飼 義明 <平成30年5月>
		国際農学特論
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生学特論
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		動物生理学特論1
専	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生学特論
兼任	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
兼任	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		動物生理学特論1
兼任	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
兼任	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼任	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
		灘野 大太 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月> 酵素学特論 2
		柴田 貴広 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
専	准教授	中川 優 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
		中崎 敦夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
		灘野 大太 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	准教授	邊見 久 <平成30年4月> 酵素学特論 2
		柴田 貴広 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
兼任	准教授	中川 優 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
		中崎 敦夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
兼任	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		植物病理学特論
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		植物発生学特論 生物情報学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		植物病理学特論
兼任	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論
兼任	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論
兼任	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論
兼任	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1
兼任	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー
兼任	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		植物発生学特論 生物情報学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論
専	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月>
		生物分子工学特論
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論
兼任	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月>
		生物分子工学特論
兼任	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論
兼任	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論
兼担	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
兼担	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼担	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼担	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼担	准教授	鈴木 孝幸 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
兼担	准教授	松山 秀一 <平成30年4月>
		動物生産学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼任	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
兼任	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
兼任	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修1 海外研修演習1
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		生物分子工学特論
専	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
兼任	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修
兼任	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修1 海外研修演習1
兼任	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		生物分子工学特論
兼任	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	安立 昌篤 <平成30年4月>
		有機合成化学特論
専	助教	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論
専	助教	青木 弾 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	松尾 美幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	安立 昌篤 <平成30年4月>
		有機合成化学特論
兼任	講師	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論
専	講師	青木 弾 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	松尾 美幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
専	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼任	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
兼任	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
兼任	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
兼任	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論
専	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
兼任	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論
兼任	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論
兼任	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論
兼任	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		作物科学特論
兼任	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論
兼任	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
		野田口 理孝 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	助教	

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成29年5月1日 安立昌篤助教が講師に昇格。
- ・平成29年7月1日 青木弾助教が講師昇格。
- ・平成29年9月1日 松尾美幸助教が講師昇格。
- ・平成30年1月1日 太田垣駿吾助教が講師昇格。
- ・平成30年3月31日 柘植尚志教授辞任。
- ・平成30年4月1日 土川寛教授の担当科目追加。
- ・平成30年4月1日 鈴木孝幸准教授、松山秀一准教授、野田口理孝助教、土岐和多瑠助教就任。
- ・平成30年5月1日 犬飼義明准教授が教授に昇格。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
10	9	2	6	27	9	8	4	4	25	10	9	2	6	27
(9)	(8)	(4)	(3)	(24)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
27	0	0			25	0	0			27	0	0		
(25)	(0)	(0)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{27} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士前期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
	該当なし

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で，設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中
 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施
 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には，関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には，実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環境・健康」に関する次世代の科学と技術を創造する能力を有し、豊かな学識、国際的かつ複眼的な視野をあわせもった先導的な人材を養成することを目的としている。

また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

今後は各年度ごとにその実施状況、成果について検証し、大学の評価部門が取りまとめている現況調査書等に反映していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 植物生産科学専攻 (博士前期課程) 修士(農学)	農学関係	2年	30人	60人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	30 (-) [-]				1.17倍	
志願者数	43 (-) [3]					
受験者数	36 (-) [3]					
合格者数	36 (-) [3]					
B 入学者数	35 (-) [3]					
入学定員超過率 B/A	1.17					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	35 [-] (3)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	35 [-] (3)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	35 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合 計	35 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{35} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 植物生産科学専攻（博士前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			8	1					
	研究リテラシー	1②	1			3						4
専門科目 (B類)	植物分子遺伝学特論	1①		1		2	3			1		4
	植物分子育種学特論	1③		1			1			1		
	園芸科学特論	1②		1		1	1			1		
	作物科学特論	1②		1		1	1					
	作物ストレス生理学特論	1②		1		2		1		1		
	植物病理学特論	1③		1		2	2			2		
	農業経済学特論	1③		1			1			1		
	国際農学特論	1①		1							4	
	植物研究アプローチ特論	1③		1		2					1	
専門科目 (C類)	森林環境学特論	1③		1		2	1			2		2
	森林生物学特論	1②		1		2	2	1				
	森林社会学特論	1③		1		1	1			2		
	森林資源産業化特論	1②		1		2	2			1		
	土壌学特論	1①		1		2	1	1				
	バイオマス科学特論	1①		1		2	3			2		
	木質細胞学特論	1③		1		2	3			2		
	生物材料解析学特論	1①		1		2	2	1		1		
	非線形材料力学特論	1③		1		1	1			1		
	動物解剖生理学特論	1③		1		2	2					
	動物遺伝学特論	1③		1		2	1			1		
	動物生理学特論1	1①		1			2					
	動物生理学特論2	1②		1		1	1	1	1			
	動物生殖学特論	1①		1		1	1	1				
	動物生産学特論	1③		1		1						
	応用昆虫学特論	1①		1			1	1				
	昆虫病理学特論	1②		1		1				1		
	有機合成化学特論	1①		1		1	1			1		
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1		1	1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			2	1					7
	研究リテラシー	1②	1			2						5
専門科目 (C類)	植物分子遺伝学特論	1①		1		1				1		2
	植物分子育種学特論	1③		1		2	3			1		
	園芸科学特論	1②		1		1	1	1		1		
	作物科学特論	1②		1		1	1			1		
	作物ストレス生理学特論	1②		1		2		1		1		
	植物病理学特論	1③		1		1	2			1		
	農業経済学特論	1③		1			1			1		
	国際農学特論	1①		1		2	2					
	植物研究アプローチ特論	1③		1		1					2	
専門科目 (B類)	森林環境学特論	1③		1								5
	森林生物学特論	1②		1								6
	森林社会学特論	1③		1								2
	森林資源産業化特論	1②		1								4
	土壌学特論	1①		1								4
	バイオマス科学特論	1①		1								7
	木質細胞学特論	1③		1								7
	生物材料解析学特論	1①		1								4
	非線形材料力学特論	1③		1								2
	動物解剖生理学特論	1③		1								4
	動物遺伝学特論	1③		1								4
	動物生理学特論1	1①		1								3
	動物生理学特論2	1②		1								4
	動物生殖学特論	1①		1								3
	動物生産学特論	1③		1								2
	応用昆虫学特論	1①		1								2
	昆虫病理学特論	1②		1								2
有機合成化学特論	1①		1								3	
ケミカルバイオロジー特論	1①		1								2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目(C類)	生物活性物質化学特論	1③		1		1	1	1					
	機能性高分子化学特論	1②		1		1	1						
	酵素学特論1	1②		1		1							
	酵素学特論2	1③		1		1	1	1					
	分子細胞生物学特論1	1①		1		2	3	1	2				
	分子細胞生物学特論2	1②		1		2	3	1	2				
	栄養生化学特論	1③		1		1	1	1					
	応用微生物学特論	1②		1		1	1	1					
	植物栄養学特論	1②		1		3							
	植物分子細胞生物学特論	1②		1		2	1						
	植物生理学特論	1①		1		1	1					1	
	植物発生学特論	1①		1			1					2	
	生物分子工学特論	1②		1		1	1	1	1				
	糖鎖生物学特論	1②		1								2	
	生物情報学特論	1・2		1								1	
	Basics of Bioagricultural Sciences	1・2		1			2	4	1				
	多文化共生特論1	1③		1		1							
	多文化共生特論2	2③		1		1							
	グローバルリーダー1	1③④		1		1							
	グローバルリーダー2	2①②		1		1							
	グローバルリーダー3	1④		1		1							
	グローバルリーダー4	2①②		1		1							
	生命農学基盤実験	1・2		1		6	5	2	3				
特別講義	1・2		1										
国内実地研修	1・2		1		1	1	1						
海外実地研修1	1・2		1		1	2	1						
海外研修演習1	1・2		1		1	2	1						
専門科目(D類)	生命農学演習1	1①②	2			7	7	1	6				
	生命農学演習2	1③④	2			7	7	1	6				
	生命農学演習3	2①②	2			7	7	1	6				
	生命農学演習4	2③④	2			7	7	1	6				
	修士論文研究1	1①②	3			7	7	1	6				
	修士論文研究2	1③④	3			7	7	1	6				
	修士論文研究3	2①②	3			7	7	1	6				
	修士論文研究4	2③④	3			7	7	1	6				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目(C類)	生物活性物質化学特論	1③		1									3
	機能性高分子化学特論	1②		1									2
	酵素学特論1	1②		1									1
	酵素学特論2	1③		1									3
	分子細胞生物学特論1	1①		1									8
	分子細胞生物学特論2	1②		1									8
	栄養生化学特論	1③		1									3
	応用微生物学特論	1②		1									3
	植物栄養学特論	1②		1									3
	植物分子細胞生物学特論	1②		1									3
	植物生理学特論	1①		1									3
	植物発生学特論	1①		1									3
	生物分子工学特論	1②		1									4
	糖鎖生物学特論	1②		1									2
	生物情報学特論	1・2		1									1
	Basics of Bioagricultural Sciences	1・2		1					1	1			5
	多文化共生特論1	1③		1									1
	多文化共生特論2	2③		1									1
	グローバルリーダー1	1③④		1									1
	グローバルリーダー2	2①②		1									1
	グローバルリーダー3	1④		1									1
	グローバルリーダー4	2①②		1									1
	生命農学基盤実験	1・2		1									16
特別講義	1・2		1										
国内実地研修	1・2		1					1		1		1	
海外実地研修1	1・2		1						2			2	
海外研修演習1	1・2		1						2			2	
専門科目(D類)	生命農学演習1	1①②	2						11	10	2	6	
	生命農学演習2	1③④	2						11	10	2	6	
	生命農学演習3	2①②	2						11	10	2	6	
	生命農学演習4	2③④	2						11	10	2	6	
	修士論文研究1	1①②	3						11	10	2	6	
	修士論文研究2	1③④	3						11	10	2	6	
	修士論文研究3	2①②	3						11	10	2	6	
	修士論文研究4	2③④	3						11	10	2	6	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員へ変更により、「生命農学本論」「研究リテラシー」「植物分子遺伝学特論」「植物分子育種学特論」「国際農学特論」「植物アプローチ特論」「森林環境学特論」「森林生物学特論」「森林社会学特論」「森林資源産業化特論」「土壌学特論」「バイオマス科学特論」「木質細胞学特論」「生物材料解析学特論」「非線形材料力学特論」「動物解剖生理学特論」「動物遺伝学特論」「動物生理学特論1,2」「動物生殖学特論」「動物生産学特論」「応用昆虫学特論」「昆虫病理学特論」「有機合成化学特論」「ケミカルバイオロジー特論」「生物活性物質化学特論」「機能性高分子化学特論」「酵素学特論1,2」「分子細胞生物学特論1,2」「栄養化学特論」「応用微生物学特論」「植物栄養学特論」「植物分子細胞生物学特論」「植物生理学特論」「植物発生学特論」「生物分子工学特論」「Basics of Bioagricultural Sciences」「多文化共生特論1,2」「グローバルリーダー1~4」「生命農学基盤実験」「国内実地研修」「海外実地研修1」「海外研修演習1」の配置教員数を変更。

・講師昇格により、「園芸科学特論」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。

・助教追加により、「作物科学特論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。

・教授退職により、「植物病理学特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「助教2」から「助教1」に変更。

・教授、准教授、助教の追加、助教から講師への昇格により、「生命農学演習1~4」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授11」、「准教授7」から「准教授10」、「講師1」から「講師2」に変更。

・教授、准教授、助教の追加、助教から講師への昇格により、「修士論文研究1~4」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授11」、「准教授7」から「准教授10」、「講師1」から「講師2」に変更。

(注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。

変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	55 科目	0 科目	65 科目	10 科目 [0]	55 科目 [0]	0 科目 [0]	65 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命農学研究科 植物生産科学専攻		21 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体
		[うち外国書]	[うち外国書]					
	冊	種	点	点	点			
	生命農学研究科 植物生産科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	9,229 ㎡	弓道場，プール（25m×7コース），陸上競技場（400mトラック），テニスコート（11面），野球場（1面），相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場（各1か所）						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を，申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を，その他の項目は AC 対象学部等の数値を記入してください。）

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は，その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「（5）図書・設備」については，上段に完成年度の予定数値を，下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を赤字で見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお，昨年度の報告において赤字で見え消した部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度		
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11			
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14			
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75			
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53			
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56			
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06			
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50			
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87			
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61			
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
<u>森林・環境資源科学専攻</u> (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
<u>植物生産科学専攻</u> (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
<u>動物科学専攻</u> (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
<u>応用生命科学専攻</u> (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
<u>名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43	平成7年度		
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36			
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95			
(博士後期課程)	3	13	—	44	修士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) -① 担当教員表

<名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 研究リテラシー 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	山内 章 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		国際農学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	犬飼 義明 <平成30年4月>
		国際農学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	柘植 尚志 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 研究リテラシー 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	山内 章 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		国際農学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	犬飼 義明 <平成30年5月>
		国際農学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	教授	柘植 尚志 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月> 植物発生学特論
専	教授	北 将樹 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月> 動物生理学特論2
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月> 栄養生化学特論 生命農学本論
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	教授	松田 幹 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	服部 束穂 <平成30年4月> 植物発生学特論
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月> ケミカルバイオロジー特 論
兼任	教授	一柳 健司 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月> 動物生理学特論2
兼任	教授	下村 吉治 <平成30年4月> 栄養生化学特論 生命農学本論
兼任	教授	牧 正敏 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	教授	松田 幹 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月> 酵素学特論1 酵素学特論2 研究リテラシー
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
専	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
専	教授	池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月> 酵素学特論1 酵素学特論2 研究リテラシー
兼任	教授	青井 啓悟 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論
兼任	教授	小鹿 一 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
兼任	教授	西川 俊夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
兼任	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
兼任	教授	浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
兼任	教授	池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 研究リテラシー
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 研究リテラシー
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論
兼任	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論
兼任	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
		戸丸 信弘 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月> 土壌学特論
		土川 覚 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 研究リテラシー
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		山本 浩之 <平成30年4月> バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	竹中 千里 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
		戸丸 信弘 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月> 土壌学特論
		土川 覚 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論 研究リテラシー
兼任	教授	福島 和彦 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		山本 浩之 <平成30年4月> バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
兼任	教授	太田 岳史 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月> 森林社会学特論
専	教授	東村 博子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー
専	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月> 森林社会学特論
兼任	教授	東村 博子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4
兼任	教授	中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー
兼任	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
兼任	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
兼任	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論1 生命農学本論
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論1 生命農学本論
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修1 海外研修演習1
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生理学特論
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修1 海外研修演習1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		国際農学特論 海外実地研修1 海外研修演習1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生理学特論
兼任	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		動物生理学特論1
専	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼担	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		動物生理学特論1
兼担	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
兼担	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼担	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
兼担	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
兼担	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論2
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論
専	准教授	中川 優 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論2
兼任	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論
兼任	准教授	中川 優 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論
兼任	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論
兼任	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論
兼任	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論
兼任	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月> 応用昆虫学特論 研究リテラシー
		石黒 澄衛 <平成30年4月> 植物発生学特論 生物情報学特論
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月> 応用微生物学特論
		山篠 貴史 <平成30年4月> 植物生理学特論
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
		山本 一清 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	三浦 健 <平成30年4月> 応用昆虫学特論 研究リテラシー
		石黒 澄衛 <平成30年4月> 植物発生学特論 生物情報学特論
兼任	准教授	木村 眞 <平成30年4月> 応用微生物学特論
		山篠 貴史 <平成30年4月> 植物生理学特論
兼任	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
		山本 一清 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	今井 貴規 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		山崎 真理子 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		田中 隆文 <平成30年4月> 森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論
		岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月> 動物生殖学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		山崎 真理子 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	吉田 正人 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		田中 隆文 <平成30年4月> 森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論
		岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論
兼任	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月> 動物生殖学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	太田垣 駿吾 <平成30年4月> 園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	小林 美里 <平成30年4月> 動物生理学特論2

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
兼担	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
兼担	准教授	大森 保成 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
兼担	准教授	松山 秀一 <平成30年4月> 動物生産学特論
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	講師	太田垣 駿吾 <平成30年4月> 園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼担	講師	小林 美里 <平成30年4月> 動物生理学特論2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養化学特論
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
兼任	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養化学特論
兼任	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
兼任	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
		井上 直子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月> 生物分子工学特論
		新美 友章 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	助教	安立 昌篤 <平成30年4月> 有機合成化学特論
		松尾 美幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
		井上 直子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	講師	兒島 孝明 <平成30年4月> 生物分子工学特論
		新美 友章 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	講師	安立 昌篤 <平成30年4月> 有機合成化学特論
		松尾 美幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		作物科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	助教	野田口 理孝 <平成30年4月>
		園芸科学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
		大島 健司 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	助教	高原 照直 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
		DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月> 生物分子工学特論
専	助教	山田 早人 <平成30年4月> 昆虫病理学特論
		富岡 利恵 <平成30年4月> 森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
専	助教	青木 弾 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	山縣 高宏 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
		大島 健司 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	助教	高原 照直 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
		DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月> 生物分子工学特論
兼任	助教	山田 早人 <平成30年4月> 昆虫病理学特論
		富岡 利恵 <平成30年4月> 森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
兼任	講師	青木 弾 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
		小谷 亜由美 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	安藤 幸世 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
		小谷 亜由美 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験
兼任	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して・
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度が平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 平成29年5月1日 安立昌篤助教が講師昇格。
- 平成29年7月1日 青木弾助教が講師昇格。
- 平成29年9月1日 松尾美幸助教が講師昇格。
- 平成30年1月1日 太田垣駿吾助教が講師昇格。
- 平成30年3月31日 柘植尚志教授辞任。
- 平成30年4月1日 土川寛教授の担当科目追加。
- 平成30年4月1日 松山秀一准教授、野田口理孝助教、土岐和多瑠助教就任。
- 平成30年5月1日 犬飼義明准教授が教授に昇格。

- (注)
- 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
5	4	1
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
8	6	1	6	21	11	10	2	7	30	9	9	2	7	27
(11)	(10)	(2)	(7)	(30)						[1]	[3]	[1]	[1]	[6]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
21	0	0			29	0	1			27	0	0		
(29)	(0)	(1)								[6]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上 記（C））の教員 のうち、定年を延 長して採用する 教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{21} = \boxed{128.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	柘植 尚志	必修	生命農学演習 1	①	他機関へ就職のため、H30.3.31付けで退職（30）	
			必修	生命農学演習 2	①		
			必修	生命農学演習 3	①		
			必修	生命農学演習 4	①		
			必修	修士論文研究 1	①		
			必修	修士論文研究 2	①		
			必修	修士論文研究 3	①		
			必修	修士論文研究 4	①		
		選択	植物病理学特論	①			
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	8 科目	必修	8 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	9 科目	計	9 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	8 科目	必修	8 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	9 科目	計	9 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{21} = \boxed{4.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>教育に支障がないように、それぞれ専任教員を配置しているため、学生への影響はない。また、ガイダンス及び個別指導により学生へ周知している。</p>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 植物生産科学専攻（博士前期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中

 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 動物科学専攻 (博士前期課程) 修士(農学)	農学関係	2年	28人	56人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	28 (-) [-]	() () []	() () []	() () []	1.00倍	
志願者数	35 (-) [1]	() () []	() () []	() () []		
受験者数	34 (-) [1]	() () []	() () []	() () []		
合格者数	31 (-) [1]	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	28 (-) [1]	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.00					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	28 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	28 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	28 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合 計	28 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 動物科学専攻（博士前期課程）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			8	1					
	研究リテラシー	1②	1			3						4
専門科目 (B類)	動物解剖生理学特論	1③		1		2	2					2
	動物遺伝学特論	1③		1		2	1		1			
	動物生理学特論1	1①		1			2					
	動物生理学特論2	1②		1		1	1	1	1			
	動物生殖学特論	1①		1		1	1	1				
	動物生産学特論	1③		1		1						
	応用昆虫学特論	1①		1			1	1				
	昆虫病理学特論	1②		1		1				1		
専門科目 (C類)	森林環境学特論	1③		1		2	1			2		4
	森林生物学特論	1②		1		2	2	1				
	森林社会学特論	1③		1		1	1			2		
	森林資源産業化特論	1②		1		2	2			1		
	土壌学特論	1①		1		2	1	1				
	バイオマス科学特論	1①		1		2	3			2		
	木質細胞学特論	1③		1		2	3			2		
	生物材料解析学特論	1①		1		2	2	1	1			
	非線形材料力学特論	1③		1		1	1			1		
	植物分子遺伝学特論	1①		1		1				1		
	植物分子育種学特論	1③		1			1			1		
	園芸科学特論	1②		1		1	1			1		
	作物科学特論	1②		1		1	1					
	作物ストレス生理学特論	1②		1		2		1	1			
	植物病理学特論	1③		1		2	2			2		
	有機合成化学特論	1①		1		1	1			1		
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1		1	1					
	生物活性物質化学特論	1③		1		1	1		1			
機能性高分子化学特論	1②		1		1	1						
酵素学特論1	1②		1		1							

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			2						8
	研究リテラシー	1②	1			1	1					5
専門科目 (B類)	動物解剖生理学特論	1③		1		2	2					
	動物遺伝学特論	1③		1		2	1			1		
	動物生理学特論1	1①		1		1	2					
	動物生理学特論2	1②		1		1	1	1	1			
	動物生殖学特論	1①		1		1	1	1				
	動物生産学特論	1③		1		1	1					
	応用昆虫学特論	1①		1			1	1				
	昆虫病理学特論	1②		1		1				1		
専門科目 (C類)	森林環境学特論	1③		1								5
	森林生物学特論	1②		1								6
	森林社会学特論	1③		1								2
	森林資源産業化特論	1②		1								4
	土壌学特論	1①		1								4
	バイオマス科学特論	1①		1								7
	木質細胞学特論	1③		1								7
	生物材料解析学特論	1①		1								4
	非線形材料力学特論	1③		1								2
	植物分子遺伝学特論	1①		1								2
	植物分子育種学特論	1③		1								6
	園芸科学特論	1②		1								4
	作物科学特論	1②		1								3
	作物ストレス生理学特論	1②		1								4
	植物病理学特論	1③		1								4
	有機合成化学特論	1①		1								3
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1								2
	生物活性物質化学特論	1③		1								3
機能性高分子化学特論	1②		1								2	
酵素学特論1	1②		1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目（C類）	酵素学特論2	1③	1			1	1	1					
	分子細胞生物学特論1	1①	1			2	3	1	2				
	分子細胞生物学特論2	1②	1			2	3	1	2				
	栄養化学特論	1③	1			1	1	1					
	応用微生物学特論	1②	1			1	1	1					
	植物栄養学特論	1②	1			3							
	植物分子細胞生物学特論	1②	1			2	1						
	植物生理学特論	1①	1			1	1				1		
	植物発生学特論	1①	1				1				2		
	植物研究アプローチ特論	1③	1			2					1		
	生物分子工学特論	1②	1			1	1	1	1				
	糖鎖生物学特論	1②	1								2		
	生物情報学特論	1-2 ①②③④	1								1		
	農業経済学特論	1③	1				1		1				
	国際農学特論	1①	1								4		
	Basics of Bioagricultural Sciences	1-2 ①②③④	1				2	4	1				
	多文化共生特論1	1③	1			1							
	多文化共生特論2	2③	1			1							
	グローバルリーダー1	1③④	1			1							
	グローバルリーダー2	2①②	1			1							
グローバルリーダー3	1④	1			1								
グローバルリーダー4	2①②	1			1								
生命農学基盤実験	1-2①②③④	1			6	5	2	3					
特別講義	1-2①②③④	1											
国内実地研修	1-2①②③④	1			1	1	1						
海外実地研修1	1-2①②③④	1			1	2	1						
海外研修演習1	1-2①②③④	1			1	2	1						
専門科目（D類）	生命農学演習1	1①②	2			8	7	3	4				
	生命農学演習2	1③④	2			8	7	3	4				
	生命農学演習3	2①②	2			8	7	3	4				
	生命農学演習4	2③④	2			8	7	3	4				
	修士論文研究1	1①②	3			8	7	3	4				
	修士論文研究2	1③④	3			8	7	3	4				
	修士論文研究3	2①②	3			8	7	3	4				
	修士論文研究4	2③④	3			8	7	3	4				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目（C類）	酵素学特論2	1③	1										3
	分子細胞生物学特論1	1①	1										8
	分子細胞生物学特論2	1②	1										8
	栄養化学特論	1③	1										3
	応用微生物学特論	1②	1										3
	植物栄養学特論	1②	1										3
	植物分子細胞生物学特論	1②	1										3
	植物生理学特論	1①	1										3
	植物発生学特論	1①	1										3
	植物研究アプローチ特論	1③	1										3
	生物分子工学特論	1②	1										4
	糖鎖生物学特論	1②	1										2
	生物情報学特論	1-2 ①②③④	1										1
	農業経済学特論	1③	1										2
	国際農学特論	1①	1										4
	Basics of Bioagricultural Sciences	1-2 ①②	1							1			6
	多文化共生特論1	1③	1						1				
	多文化共生特論2	2③	1						1				
	グローバルリーダー1	1③④	1						1				
	グローバルリーダー2	2①②	1						1				
グローバルリーダー3	1④	1						1					
グローバルリーダー4	2①②	1						1					
生命農学基盤実験	1-2①②③④	1										16	
特別講義	1-2①②③④	1											
国内実地研修	1-2①②③④	1										3	
海外実地研修1	1-2①②③④	1						1		1		2	
海外研修演習1	1-2①②③④	1						1		1		2	
専門科目（D類）	生命農学演習1	1①②	2						9	9	3	4	
	生命農学演習2	1③④	2						9	9	3	4	
	生命農学演習3	2①②	2						9	9	3	4	
	生命農学演習4	2③④	2						9	9	3	4	
	修士論文研究1	1①②	3						9	9	3	4	
	修士論文研究2	1③④	3						9	9	3	4	
	修士論文研究3	2①②	3						9	9	3	4	
	修士論文研究4	2③④	3						9	9	3	4	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員へ変更により、「生命農学本論」「研究リテラシー」「動物生理学特論1」「森林環境学特論」、「森林生物学特論」「森林社会学特論」「森林資源産業化特論」「土壌学特論」「バイオマス科学特論」「木質細胞学特論」「生物材料解析学特論」「非線形材料力学特論」「植物分子遺伝学特論」「植物分子育種学特論」「園芸科学特論」「作物科学特論」「作物ストレス生理学特論」「植物病理学特論」「有機合成化学特論」「ケミカルバイオロジー特論」「生理活性物質化学特論」「機能性高分子化学特論」「酵素学特論1, 2」「分子細胞生物学特論1, 2」「栄養生化学特論」「応用微生物学特論」「植物栄養学特論」「植物分子細胞生物学特論」「植物生理学特論」「植物発生学特論」「植物研究アプローチ特論」「生物分子工学特論」「農業経済学特論」「Basics of Bioagricultural Sciences」「生命農学基盤実験」「国内実地研修」「海外実地研修1」「海外研修実習1」の配置教員数を変更。

・准教授採用により、「動物生産学特論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。

・教授、准教授追加により、「生命農学演習1～4」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授9」、「准教授7」から「准教授9」に変更。

・教授、准教授追加により、「修士論文研究1～4」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授9」、「准教授7」から「准教授9」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	55 科目	0 科目	65 科目	10 科目 [0]	55 科目 [0]	0 科目 [0]	65 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命農学研究科 動物科学専攻		25 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科全体
	生命農学研究科 動物科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
	計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊	大学全体				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,229 ㎡	弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を, 申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を, その他の項目は AC 対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消した部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延) がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.11	平成7年度		
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.14	平成7年度		
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75		
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53		
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56		
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06		
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50		
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87		
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61		
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—		平成30年より学生募集停止

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42		
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33		
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28		
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度	
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64		
名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度	

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	44	修士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表
 <名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 多文化共生特論 1 多文化共生特論 2 グローバルリーダー 1 グローバルリーダー 2 グローバルリーダー 3 グローバルリーダー 4 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 多文化共生特論 1 多文化共生特論 2 グローバルリーダー 1 グローバルリーダー 2 グローバルリーダー 3 グローバルリーダー 4 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		動物生産学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論 1 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		動物生産学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		動物生理学特論 1 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
兼任	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼任	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼任	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		植物発生学特論
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
兼任	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		植物発生学特論
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論
兼任	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論
兼任	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー
兼任	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
専	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
専	教授	川北 一人 <平成30年4月> 植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
専	教授	榑原 均 <平成30年4月> 植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	小鹿 一 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
兼任	教授	西川 俊夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
兼任	教授	前島 正義 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 生命農学本論
兼任	教授	浅川 晋 <平成30年4月> 土壌学特論
兼任	教授	川北 一人 <平成30年4月> 植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
兼任	教授	中園 幹生 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
兼任	教授	松本 省吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	教授	榑原 均 <平成30年4月> 植物栄養学特論 植物研究アプローチ特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論
兼任	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		作物科学特論
兼任	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
兼任	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
兼任	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月> 土壌学特論
専	教授	土川 覚 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 研究リテラシー
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月> バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月> 森林社会学特論
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月> 土壌学特論
兼任	教授	土川 覚 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論 研究リテラシー
兼任	教授	福島 和彦 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	教授	山本 浩之 <平成30年4月> バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
兼任	教授	太田 岳史 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月> 森林社会学特論
兼任	教授	中野 秀雄 <平成30年4月> 生物分子工学特論 研究リテラシー

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	教授	江原 宏 <平成30年4月> 国際農学特論
専	准教授	犬飼 義明 <平成30年4月> 国際農学特論
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月> 動物生理学特論1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	石川 明 <平成30年4月> 動物遺伝学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月> 動物生理学特論2 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	森 仁志 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論
兼任	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月> 国際農学特論
兼任	教授	犬飼 義明 <平成30年5月> 国際農学特論
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月> 動物生理学特論1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	石川 明 <平成30年4月> 動物遺伝学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月> 動物生理学特論2 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	鈴木 孝幸 <平成30年4月>
		生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
専	准教授	松山 秀一 <平成30年4月>
		動物生産学特論 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生学特論
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論 2
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		植物発生学特論
兼任	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
兼任	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
兼任	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論 2
兼任	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	中川 優 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月> 植物病理学特論
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月> 園芸科学特論
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月> 植物病理学特論
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月> 土壌学特論
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月> 植物発生学特論 生物情報学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	中川 優 <平成30年4月> 生物活性物質化学特論
兼任	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月> 有機合成化学特論
兼任	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月> 機能性高分子化学特論
兼任	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月> 植物病理学特論
兼任	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月> 植物病理学特論
兼任	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月> 土壌学特論
兼任	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月> 植物発生学特論 生物情報学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論
兼任	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
兼任	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		田中 隆文 <平成30年4月> 森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論
		岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
		竹下 広宣 <平成30年4月> 農業経済学特論
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月> 植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	准教授	吉田 正人 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
		田中 隆文 <平成30年4月> 森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月> 植物分子細胞生物学特論
		岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論
兼任	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
		竹下 広宣 <平成30年4月> 農業経済学特論
兼任	准教授	土井 一行 <平成30年4月> 植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	准教授	槇原 大悟 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
専	講師	小林 美里 <平成30年4月> 動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月> 応用昆虫学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	井上 直子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
兼任	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	准教授	槇原 大悟 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
専	講師	小林 美里 <平成30年4月> 動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月> 応用昆虫学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	井上 直子 <平成30年4月> 動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 智和 <平成30年4月>
		酵素学特論2
兼任	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論
兼任	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences
兼任	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論
兼任	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
専	講師	児島 孝明 <平成30年4月> 生物分子工学特論
専	講師	新美 友章 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
専	助教	安立 昌篤 <平成30年4月> 有機合成化学特論
専	助教	太田垣 駿吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
専	助教	青木 弾 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	松尾 美幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月> 生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
兼任	講師	児島 孝明 <平成30年4月> 生物分子工学特論
兼任	講師	新美 友章 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
兼任	講師	安立 昌篤 <平成30年4月> 有機合成化学特論
兼任	講師	太田垣 駿吾 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	講師	青木 弾 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	講師	松尾 美幸 <平成30年4月> バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	後藤 麻木 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		動物生理学特論2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	後藤 麻木 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		昆虫病理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
兼任	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2
兼任	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論
兼任	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
兼任	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		植物病理学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
		杉浦 大輔 <平成30年4月> 作物科学特論
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月> 森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
		安藤 幸世 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験
		三浦 聡 <平成30年4月> 農業経済学特論
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月> 植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	助教	大井 崇生 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
		杉浦 大輔 <平成30年4月> 作物科学特論
兼任	助教	富岡 利恵 <平成30年4月> 森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
		安藤 幸世 <平成30年4月> 森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
兼任	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験
		三浦 聡 <平成30年4月> 農業経済学特論
兼任	助教	西内 俊策 <平成30年4月> 植物分子育種学特論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	高原 照直 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	助教	高原 照直 <平成30年4月> 分子細胞生物学特論1 分子細胞生物学特論2
兼任	助教	野田口 理孝 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験

- (注)
- ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 - ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成29年7月1日 青木弾助教が講師に昇格。
- ・平成29年9月1日 松尾美幸助教が講師に昇格。
- ・平成30年1月1日 太田垣駿吾助教が講師に昇格。
- ・平成30年4月1日 土川寛教授の担当科目追加。
- ・平成30年4月1日 鈴木孝幸准教授、松山秀一准教授、野田口理孝助教、土岐和多瑠助教就任。
- ・平成30年5月1日 犬飼義明准教授が教授に昇格。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
8	8	3	4	23	9	9	3	4	25	8	8	3	4	23
(9)	(9)	(3)	(4)	(25)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
23	0	0			25	0	0			23	0	0		
(25)	(0)	(0)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D)+(F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{0}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 動物科学専攻（博士前期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中
 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施
 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
- 今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
 また、そのねらいは以下のとおりである。
- 農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。
 - 専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。
 - 学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
 - ・平成30年10月 公表予定
 - b 公表方法
 - ・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
 - ・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
 また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
 なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)
 - b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
 ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 応用生命科学専攻 (博士前期課程) 修士(農学)	農学関係	2年	66人	132人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	66 (-) [-]	() () []	() () []	() () []	0.95倍	
志願者数	90 (-) [4]	() () []	() () []	() () []		
受験者数	86 (-) [4]	() () []	() () []	() () []		
合格者数	72 (-) [2]	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	63 (-) [1]	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	0.95					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	63 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	63 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	63 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	63 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{63} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 応用生命科学専攻（博士前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命農学本論	1①	1			8	1					
	研究リテラシー	1②	1			3						4
専門科目 (B類)	有機合成化学特論	1①		1		1	1			1		
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1		1	1					
	生物活性物質化学特論	1③		1		1	1	1				
	機能性高分子化学特論	1②		1		1	1					
	酵素学特論1	1②		1		1						
	酵素学特論2	1③		1		1	1	1				
	分子細胞生物学特論1	1①		1		2	3	1	2			
	分子細胞生物学特論2	1②		1		2	3	1	2			
	栄養生化学特論	1③		1		1	1	1				
	応用微生物学特論	1②		1		1	1	1				
	植物栄養学特論	1②		1		3						
	植物分子細胞生物学特論	1②		1		2	1					
	植物生理学特論	1①		1		1	1					1
	植物発生学特論	1①		1			1					2
	植物研究アプローチ特論	1③		1		2						1
	生物分子工学特論	1②		1		1	1	1	1			
糖鎖生物学特論	1②		1								2	
生物情報学特論	1・2		1								1	
土壌学特論	1①		1		2	1	1					
専門科目 (C類)	森林環境学特論	1③		1		2	1		2			
	森林生物学特論	1②		1		2	2	1				
	森林社会学特論	1③		1		1	1		2			
	森林資源産業化特論	1②		1		2	2	1				
	バイオマス科学特論	1①		1		2	3	2				
	木質細胞学特論	1③		1		2	3	2				
	生物材料解析学特論	1①		1		2	2	1	1			
	非線形材料力学特論	1③		1		1	1		1			
植物分子遺伝学特論	1①		1		1			1				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	生命農学本論	1①	1						2				8
	研究リテラシー	1②	1						2				5
専門科目 (B類)	有機合成化学特論	1①		1		1	1		1				
	ケミカルバイオロジー特論	1①		1		1	1		1				
	生物活性物質化学特論	1③		1		1	1	1					
	機能性高分子化学特論	1②		1		1	1		1				
	酵素学特論1	1②		1		1			1				
	酵素学特論2	1③		1		1	1	1	1				
	分子細胞生物学特論1	1①		1		2	3	1	2				
	分子細胞生物学特論2	1②		1		2	3	1	2				
	栄養生化学特論	1③		1		1	1	1	1				
	応用微生物学特論	1②		1		1	1	1	1				
	植物栄養学特論	1②		1		3							
	植物分子細胞生物学特論	1②		1		2	1						
	植物生理学特論	1①		1		1	1		2				
	植物発生学特論	1①		1			1		2				
	植物研究アプローチ特論	1③		1		2							1
	生物分子工学特論	1②		1		1	1	1	1	1			
糖鎖生物学特論	1②		1					1	1				
生物情報学特論	1・2		1						1				
土壌学特論	1①		1		1	1	1		1			1	
専門科目 (C類)	森林環境学特論	1③		1									5
	森林生物学特論	1②		1									6
	森林社会学特論	1③		1									2
	森林資源産業化特論	1②		1									4
	バイオマス科学特論	1①		1									7
	木質細胞学特論	1③		1									7
	生物材料解析学特論	1①		1									4
	非線形材料力学特論	1③		1									2
植物分子遺伝学特論	1①		1									2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目 (C類)	植物分子育種学特論	1③	1			1			1		4
	園芸科学特論	1②	1			1	1		1		
	作物科学特論	1②	1			1	1				
	作物ストレス生理学特論	1②	1			2		1	1		
	植物病理学特論	1③	1			2	2		2		
	動物解剖生理学特論	1③	1			2	2				
	動物遺伝学特論	1③	1			2	1		1		2
	動物生理学特論1	1①	1				2				
	動物生理学特論2	1②	1			1	1	1	1		
	動物生殖学特論	1①	1			1	1	1			
	動物生産学特論	1③	1			1					
	応用昆虫学特論	1①	1				1	1			
	昆虫病理学特論	1②	1			1			1		
	農業経済学特論	1③	1				1		1		
	国際農学特論	1①	1								4
	Basics of Bioagricultural Sciences	1-2	1				2	4	1		
	多文化共生特論1	1③	1			1					
	多文化共生特論2	2③	1			1					
	グローバルリーダー1	1③④	1			1					
	グローバルリーダー2	2①②	1			1					
グローバルリーダー3	1④	1			1						
グローバルリーダー4	2①②	1			1						
生命農学基盤実験	1-2	1			6	5	2	3			
特別講義	1-2	1									
国内実地研修	1-2	1			1	1	1				
海外実地研修1	1-2	1			1	2	1				
海外研修演習1	1-2	1			1	2	1				
専門科目 (D類)	生命農学演習1	1①②	2			16	16	7	7		
	生命農学演習2	1③④	2			16	16	7	7		
	生命農学演習3	2①②	2			16	16	7	7		
	生命農学演習4	2③④	2			16	16	7	7		
	修士論文研究1	1①②	3			16	16	7	7		
	修士論文研究2	1③④	3			16	16	7	7		
	修士論文研究3	2①②	3			16	16	7	7		
	修士論文研究4	2③④	3			16	16	7	7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目 (C類)	植物分子育種学特論	1③	1								6
	園芸科学特論	1②	1								4
	作物科学特論	1②	1								3
	作物ストレス生理学特論	1②	1								4
	植物病理学特論	1③	1								4
	動物解剖生理学特論	1③	1								4
	動物遺伝学特論	1③	1								5
	動物生理学特論1	1①	1								3
	動物生理学特論2	1②	1								4
	動物生殖学特論	1①	1								3
	動物生産学特論	1③	1								2
	応用昆虫学特論	1①	1								2
	昆虫病理学特論	1②	1								2
	農業経済学特論	1③	1								2
	国際農学特論	1①	1								4
	Basics of Bioagricultural Sciences	1-2	1					1	2		4
	多文化共生特論1	1③	1								1
	多文化共生特論2	2③	1								1
	グローバルリーダー1	1③④	1								1
	グローバルリーダー2	2①②	1								1
グローバルリーダー3	1④	1								1	
グローバルリーダー4	2①②	1								1	
生命農学基盤実験	1-2	1								16	
特別講義	1-2	1									
国内実地研修	1-2	1								3	
海外実地研修1	1-2	1								4	
海外研修演習1	1-2	1								4	
専門科目 (D類)	生命農学演習1	1①②	2					19	19	8	7
	生命農学演習2	1③④	2					19	19	8	7
	生命農学演習3	2①②	2					19	19	8	7
	生命農学演習4	2③④	2					19	19	8	7
	修士論文研究1	1①②	3					19	19	8	7
	修士論文研究2	1③④	3					19	19	8	7
	修士論文研究3	2①②	3					19	19	8	7
	修士論文研究4	2③④	3					19	19	8	7

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員、兼任教員から専任教員へ変更により、「生命農学本論」「研究リテラシー」「植物生理学特論」「植物発生学特論」「糖鎖生物学特論」「生物情報学特論」「土壌学特論」「森林環境学特論」「森林生物学特論」「森林社会学特論」「森林資源産業化特論」「バイオマス科学特論」「木質細胞学特論」「生物材料解析特論」「非線形材料力学特論」「植物分子遺伝学特論」「植物分子育種学特論」「園芸科学特論」「作物科学特論」「作物ストレス生理学特論」「植物病理学特論」「動物解剖生理学特論」「動物遺伝学特論」「動物生理学特論1, 2」「動物生殖学特論」「動物生産学特論」「応用昆虫学特論」「昆虫病理学特論」「農業経済学特論」「Basics of Bioagricultural Sciences」「多文化共生特論1, 2」「グローバルリーダー1～4」「生命農学基盤実験」「国内実地研修」「海外実地研修1」「海外研修演習1」の配置教員数を変更。
 ・助教から講師への昇格により、「有機合成化学特論」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に、「助教1」から「助教0」に変更。
 ・教授、准教授、助教から講師への昇格により、「生命農学演習1～4」の専任教員等の配置を「教授16」から「教授19」、「准教授16」から「准教授19」、「講師7」から「講師8」に変更。
 ・教授、准教授、助教から講師への昇格により、「修士論文研究1～4」の専任教員等の配置を「教授16」から「教授19」、「准教授16」から「准教授19」、「講師7」から「講師8」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	55 科目	0 科目	65 科目	10 科目 [0]	55 科目 [0]	0 科目 [0]	65 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命農学研究科 応用生命科学専攻		48 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科全体
	生命農学研究科 応用生命科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
	計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊	大学全体				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,229 ㎡	弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を, 申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を, その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消した部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延) がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

- ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68		
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90		
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99		
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71		
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90		
理学研究科							昭和28年度	
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度	
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11		
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82		
物質理学専攻							平成7年度	
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14		
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31		
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度	
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度	
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度	
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度	
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00		
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75			
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53			
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56			
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06			
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50			
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87			
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61			
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—		
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42		
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33		
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28		
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度	
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64		
名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度	

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43	平成7年度		
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36			
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95			
(博士後期課程)	3	13	—	44	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66	平成24年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表
 <名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		植物発生学特論
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		糖鎖生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		植物発生学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	前島 正義 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	榑原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチャ特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		酵素学特論 1 酵素学特論 2 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	前島 正義 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 生命農学本論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	榑原 均 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 植物研究アプローチャ特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		生物分子工学特論 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	森 仁志 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		植物栄養学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		生物分子工学特論 研究リテラシー 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	教授	森 仁志 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 植物研究アプローチ特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼任	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼任	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		植物研究アプローチ特論 生命農学本論
兼任	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		動物遺伝学特論
兼任	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼任	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		植物病理学特論 生命農学本論 研究リテラシー 国内実地研修
兼任	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		植物分子遺伝学特論
兼任	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論 研究リテラシー
専	教授	山本 直之 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月> 作物科学特論
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	教授	山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	池田 素子 <平成30年4月> 昆虫病理学特論 生命農学本論
兼任	教授	本道 栄一 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論 研究リテラシー
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
兼任	教授	近藤 始彦 <平成30年4月> 作物科学特論
兼任	教授	竹中 千里 <平成30年4月> 森林環境学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論
兼任	教授	谷口 光隆 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論 研究リテラシー
兼任	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	山内 章 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		土壌学特論
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 研究リテラシー
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		森林社会学特論
専	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		土壌学特論
兼任	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験 生命農学本論 研究リテラシー
兼任	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 森林資源産業化特論 木質細胞学特論 生命農学本論
兼任	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		森林社会学特論
兼任	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 多文化共生特論1 多文化共生特論2 グローバルリーダー1 グローバルリーダー2 グローバルリーダー3 グローバルリーダー4

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
専	教授	江原 宏 <平成30年4月> 国際農学特論
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月> 動物生理学特論1 生命農学本論
専	准教授	犬飼 義明 <平成30年4月> 国際農学特論
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月> 植物発生物学特論
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月> 糖鎖生物学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	肘井 直樹 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	教授	大蔵 聡 <平成30年4月> 動物生産学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	教授	松田 洋一 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月> 国際農学特論
兼任	教授	吉村 崇 <平成30年4月> 動物生理学特論1 生命農学本論
兼任	教授	犬飼 義明 <平成30年5月> 国際農学特論
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月> 植物発生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月> 糖鎖生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	中川 優 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		酵素学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		ケミカルバイオロジー特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	中川 優 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		植物発生学特論 生物情報学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		機能性高分子化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		土壌学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		植物発生学特論 生物情報学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		植物生理学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		植物分子細胞生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月> 動物生理学特論1
専	准教授	石川 明 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月> 動物生理学特論2
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月> 植物病理学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月> 生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月> 分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	准教授	木羽 隆敏 <平成30年4月> 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
兼任	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
兼任	准教授	大川 妙子 <平成30年4月> 動物生理学特論1
兼任	准教授	石川 明 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月> 動物生理学特論2
兼任	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月> 植物病理学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		園芸科学特論
兼任	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		植物病理学特論
兼任	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		動物解剖生理学特論 動物生理学特論1
兼任	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論 研究リテラシー
兼任	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		作物科学特論
兼任	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		森林環境学特論 森林社会学特論 生命農学基盤実験
兼任	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		動物生殖学特論
兼任	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		農業経済学特論
兼任	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学本論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
		大森 保成 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
		榎原 大悟 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月> 酵素学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	梶村 恒 <平成30年4月> 森林生物学特論 生命農学基盤実験 国内実地研修
		大森 保成 <平成30年4月> 動物解剖生理学特論
兼任	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
		榎原 大悟 <平成30年4月> 国際農学特論 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月> 植物分子育種学特論
		鈴木 孝幸 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	准教授	松山 秀一 <平成30年4月> 動物生産学特論
		伊藤 智和 <平成30年4月> 酵素学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	安立 昌篤 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月>
		栄養生化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月>
		生物活性物質化学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月>
		土壌学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		応用微生物学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	講師	安立 昌篤 <平成30年4月>
		有機合成化学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1
専	助教	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		動物生理学特論2
兼任	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		応用昆虫学特論
兼任	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験
兼任	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		作物ストレス生理学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 国内実地研修
兼任	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		生物材料解析学特論 生命農学基盤実験
兼任	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		動物生殖学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 海外実地研修 1 海外研修演習 1
兼任	講師	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		園芸科学特論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	青木 弾 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	中西 洋一 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	前尾 健一郎 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	前田 真一 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	青木 弾 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		分子細胞生物学特論 1 分子細胞生物学特論 2 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		生物分子工学特論 生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	中西 洋一 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	前尾 健一郎 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4
専	助教	前田 真一 <平成30年4月>
		生命農学演習 1 生命農学演習 2 生命農学演習 3 生命農学演習 4 修士論文研究 1 修士論文研究 2 修士論文研究 3 修士論文研究 4

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	塚田 光 <平成30年4月> 動物生理学特論2
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月> 植物病理学特論
専	助教	山田 早人 <平成30年4月> 昆虫病理学特論
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月> 作物科学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	橋本(杉本) 美海 <平成30年4月> 生命農学演習1 生命農学演習2 生命農学演習3 生命農学演習4 修士論文研究1 修士論文研究2 修士論文研究3 修士論文研究4
兼任	助教	塚田 光 <平成30年4月> 動物生理学特論2
兼任	助教	山縣 高宏 <平成30年4月> 動物遺伝学特論
兼任	助教	高橋 宏和 <平成30年4月> 植物分子遺伝学特論
兼任	助教	佐藤 育男 <平成30年4月> 植物病理学特論
兼任	助教	山田 早人 <平成30年4月> 昆虫病理学特論
兼任	助教	大井 崇生 <平成30年4月> 作物ストレス生理学特論
兼任	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月> 作物科学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
専	助教	松尾 美幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		森林環境学特論 Basics of Bioagricultural Sciences 生命農学基盤実験
兼任	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		森林資源産業化特論 生物材料解析学特論 非線形材料力学特論 生命農学基盤実験
兼任	講師	松尾 美幸 <平成30年4月>
		バイオマス科学特論 木質細胞学特論
兼任	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		森林環境学特論 生命農学基盤実験
兼任	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		農業経済学特論
兼任	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		植物分子育種学特論
兼任	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月>
		森林生物学特論 生命農学基盤実験

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
		野田口 理孝 <平成30年4月> 園芸科学特論
兼任	助教	

- (注)
- ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 - ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成29年7月1日 青木弾助教が講師に昇格。
- ・平成29年9月1日 松尾美幸助教が講師に昇格。
- ・平成30年1月1日 太田垣駿吾助教が講師に昇格。
- ・平成30年4月1日 北島健教授、服部東穂教授、北将樹教授、土川寛教授、上口智治准教授、佐藤ちひろ准教授の担当科目追加。
- ・平成30年4月1日 鈴木孝幸准教授、木羽隆敏准教授、松山秀一准教授、橋本（杉本）美海助教、野田口理孝助教、土岐和多瑠助教就任。
- ・平成30年5月1日 犬飼義明准教授が教授に昇格。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
10	7	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
18	19	7	7	51	19	19	8	7	53	18	19	7	7	51
(19)	(19)	(8)	(7)	(53)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
51	0	0			53	0	0			51	0	0		
(53)	(0)	(0)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{51}{51} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{53} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
			選択	自由						
1	教授	柘植 尚志	選択		植物病理学特論	①	他機関へ就職のため、H30.3.31付けで退職（30）			
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）						後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	1	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)
0 人		必修	0 科目	必修	0 科目	必修
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由
		計	0 科目	計	0 科目	計

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>教育に支障がないように、それぞれ専任教員を配置しているため、学生への影響はない。また、ガイダンス及び個別指導により学生へ周知している。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 応用生命科学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中

 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 植物生産科学専攻 (博士後期課程) 博士(農学)	農学関係	3 年	9 人	27 人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	9 (-) [-]								0.33倍	
志願者数	3 (-) [0]									
受験者数	3 (-) [0]									
合格者数	3 (-) [0]									
B 入学者数	3 (-) [0]									
入学定員超過率 B/A	0.33									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	3 [-] (0)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	3 [-] (0)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	3人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	3人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 植物生産科学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	特別講義	1・2・3 ①②③④		1								8
	多文化共生特論3	1①②③④		1		1						
	多文化共生特論4	2①②③④		1		1						
	多文化共生特論5	3①②③④		1		1						
	海外実地研修2	1・2・3 ①②③④		1		1	2	1				
	海外研修演習2	1・2・3 ①②③④		1		1	2	1				
	博士論文研究1	1①②	3			7	7	1	6			
	博士論文研究2	1③④	3			7	7	1	6			
	博士論文研究3	2①②	3			7	7	1	6			
	博士論文研究4	2③④	3			7	7	1	6			
	博士論文研究5	3①②	3			7	7	1	6			
	博士論文研究6	3③④	3			7	7	1	6			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	特別講義	1・2・3		1		2						11
	多文化共生特論3	1・2・3		1								1
	多文化共生特論4	1・2・3		1								1
	多文化共生特論5	1・2・3		1								1
	海外実地研修2	1・2・3		1			2					2
	海外研修演習2	1・2・3		1			2					2
	博士論文研究1	1①②	3			10	11	2	7			
	博士論文研究2	1③④	3			10	11	2	7			
	博士論文研究3	2①②	3			10	11	2	7			
	博士論文研究4	2③④	3			10	11	2	7			
	博士論文研究5	3①②	3			10	11	2	7			
	博士論文研究6	3③④	3			10	11	2	7			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員へ変更により、「特別講義」「多文化共生特論3～5」「海外実地研修2」「海外研修演習2」の配置教員数を変更。
 ・教授追加、准教授追加、助教追加、助教から講師への昇格の理由により、「博士論文研究1～6」の専任教員等を「教授7」から「教授10」、「准教授7」から「准教授11」、「講師1」から「講師2」、「助教6」から「助教7」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	6 科目	0 科目	12 科目	6 科目 [0]	6 科目 [0]	0 科目 [0]	12 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命農学研究科 植物生産科学専攻		21 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科全体
	生命農学研究科 植物生産科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
	計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0	
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊	大学全体				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,229 ㎡	弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次 10	520 520	学士（文学）	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次 10	280 280	学士（教育学）	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次 10	620 620	学士（法学）	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士（経済学）	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士（経済学）		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士（情報文化学）	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士（情報文化学）	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次 10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士（情報学）	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士（情報学）	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士（情報学）	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士（理学）	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市 千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士（理学）		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士（理学）		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士（理学）		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士（理学）		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次 5	1520 662	学士（医学）	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市 昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次 20 2年次 6	858	学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市 東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11			
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14			
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東 区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハ リテーション療法 学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東 区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハ リテーション療法 学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	平成29年より学生 募集停止
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75			
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53			
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56			
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06			
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50			
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87			
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61			
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	44	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66	平成24年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表
 <名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北野 英己 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松岡 信 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	川北 一人 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	中園 幹生 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松本 省吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	近藤 始彦 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	柘植 尚志 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	谷口 光隆 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
専	准教授	犬飼 義明 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
兼任	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
専	教授	犬飼 義明 <平成30年5月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	佐塚 隆志 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	吉岡 博文 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	白武 勝裕 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	竹本 大吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	矢野 勝也 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	竹下 広宣 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	土井 一行 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修2 海外研修演習2 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修2 海外研修演習2 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	助教	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修2 海外研修演習2 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修2 海外研修演習2 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	上口 美弥子 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	三屋 史朗 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
兼任	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	講師	太田垣 駿吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	高橋 宏和 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	佐藤 育男 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	大井 崇生 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	杉浦 大輔 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	三浦 聡 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	西内 俊策 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	野田口 理孝 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年1月1日 太田垣駿吾助教が講師に昇格。
- ・平成30年3月31日 柘植尚志教授辞任。
- ・平成30年4月1日 野田口理孝助教就任。
- ・平成30年5月1日 犬飼義明准教授が教授に昇格。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
3	2	5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
8	6	1	6	21	11	11	2	7	31	11	10	2	6	29
(11)	(10)	(2)	(7)	(30)						[3]	[4]	[1]	[0]	[8]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
21	0	0			31	0	0			29	0	0		
(31)	(0)	(0)								[8]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{21} = \boxed{138.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	柘植 尚志	必修	博士論文研究 1	①	他機関へ就職のため、H30.3.31付けで退職(30)	
			必修	博士論文研究 2	①		
			必修	博士論文研究 3	①		
			必修	博士論文研究 4	①		
			必修	博士論文研究 5	①		
			必修	博士論文研究 6	①		
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	1 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	1 科目	計	1 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)		後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	1 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	1 科目	計	1 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{21} = 4.76 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

教育に支障がないように、それぞれ専任教員を配置しているため、学生への影響はない。また、ガイダンス及び個別指導により学生へ周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 植物生産科学専攻（博士後期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
	該当なし

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で，設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p>
--

・現在 企画立案中

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・現時点では未実施のため、該当なし

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 (博士後期課程) 博士(農学)	農学関係	3 年	7 人	21 人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	7 (-) [-]								0.42倍	
志願者数	3 (-) [1]									
受験者数	3 (-) [1]									
合格者数	3 (-) [1]									
B 入学者数	3 (-) [1]									
入学定員超過率 B/A	0.42									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	3 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()			
計	3 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	3人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	3人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士後期課程）＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1・2・3 ①②③④		1							8
	多文化共生特論3	1①②③④		1		1					
	多文化共生特論4	2①②③④		1		1					
	多文化共生特論5	3①②③④		1		1					
	海外実地研修2	1・2・3 ①②③④		1		1	2	1			
	海外研修演習2	1・2・3 ①②③④		1		1	2	1			
	博士論文研究1	1①②	3			10	9	2	7		
	博士論文研究2	1③④	3			10	9	2	7		
	博士論文研究3	2①②	3			10	9	2	7		
	博士論文研究4	2③④	3			10	9	2	7		
	博士論文研究5	3①②	3			10	9	2	7		
博士論文研究6	3③④	3			10	9	2	7			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1・2・3		1		3					10
	多文化共生特論3	1・2・3		1							1
	多文化共生特論4	1・2・3		1							1
	多文化共生特論5	1・2・3		1							1
	海外実地研修2	1・2・3		1							4
	海外研修演習2	1・2・3		1							4
	博士論文研究1	1①②	3			9	8	4	4		
	博士論文研究2	1③④	3			9	8	4	4		
	博士論文研究3	2①②	3			9	8	4	4		
	博士論文研究4	2③④	3			9	8	4	4		
	博士論文研究5	3①②	3			9	8	4	4		
博士論文研究6	3③④	3			9	8	4	4			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・専任教員から兼任教員へ変更により、「特別講義」「多文化共生特論3～5」「海外実地研修2」「海外研修演習2」の配置教員数を変更。
- ・教授退職、准教授退職、助教退職、助教から講師への昇格の理由により、「博士論文研究1～6」の専任教員等を「教授10」から「教授9」、「准教授9」から「准教授8」、「講師2」から「講師4」、「助教7」から「助教4」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	6 科目	0 科目	12 科目	6 科目 [0]	6 科目 [0]	0 科目 [0]	12 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻		25 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕					電子ジャーナル
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	生命農学研究科 森林・環境資源 科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0		0 0
計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	24,829 ㎡		2,031 席	3,140,500 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
	9,229 ㎡		弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 <u>（博士前期課程）</u>	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
<u>（博士後期課程）</u>	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11			
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14			
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75		
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53		
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56		
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06		
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50		
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87		
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61		
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—		平成30年より学生募集停止

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
<u>森林・環境資源科学専攻</u> (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
<u>植物生産科学専攻</u> (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
<u>動物科学専攻</u> (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
<u>応用生命科学専攻</u> (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
<u>名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	44	修士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表

<名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	竹中 千里 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	戸丸 信弘 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	福島 和彦 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	山本 浩之 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	太田 岳史 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	肘井 直樹 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
兼任	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	束村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	束村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
兼任	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	中川 弥智子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	山本 一清 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	今井 貴規 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	松下 泰幸 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	山崎 真理子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	吉田 正人 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	田中 隆文 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	准教授	槇原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修 2 海外研修演習 2
専	助教	青木 弾 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	梶村 恒 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
兼任	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
兼任	准教授	槇原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	小川 一治 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	稲垣 哲也 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
兼任	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修 2 海外研修演習 2
専	講師	青木 弾 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	松尾 美幸 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	松尾 美幸 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	富岡 利恵 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	安藤 幸世 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	小谷 亜由美 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	土岐 和多瑠 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27
 平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成29年7月1日 青木弾助教が講師に昇格。
- ・平成29年9月1日 松尾美幸助教が講師に昇格。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
3	2	5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
10	9	2	6	27	9	8	4	4	25	10	9	4	6	27
(9)	(8)	(4)	(4)	(25)						[0]	[0]	[2]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
27	0	0			25	0	0			27	0	0		
(25)	(0)	(0)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上 記（C））の教員 のうち、定年を延 長して採用する 教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{27} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計								
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0 人			必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
			選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
			自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
			計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中

 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 動物科学専攻 (博士後期課程) 博士(農学)	農学関係	3 年	7 人	21 人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	7 (-) [-]								0.28倍	
志願者数	2 (-) [1]									
受験者数	2 (-) [1]									
合格者数	2 (-) [1]									
B 入学者数	2 (-) [1]									
入学定員超過率 B/A	0.28									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	2 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	2 [-] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	2人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	2人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 動物科学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1・2・3		1							8
	多文化共生特論3	1・2・3		1		1					
	多文化共生特論4	1・2・3		1		1					
	多文化共生特論5	1・2・3		1		1					
	海外実地研修2	1・2・3		1		1	2	1			
	海外研修演習2	1・2・3		1		1	2	1			
	博士論文研究1	1①②	3			8	7	3	4		
	博士論文研究2	1③④	3			8	7	3	4		
	博士論文研究3	2①②	3			8	7	3	4		
	博士論文研究4	2③④	3			8	7	3	4		
	博士論文研究5	3①②	3			8	7	3	4		
	博士論文研究6	3③④	3			8	7	3	4		

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1・2・3		1		4					9
	多文化共生特論3	1・2・3		1		1					
	多文化共生特論4	1・2・3		1		1					
	多文化共生特論5	1・2・3		1		1					
	海外実地研修2	1・2・3		1		1		1			2
	海外研修演習2	1・2・3		1		1		1			2
	博士論文研究1	1①②	3			9	9	2	4		
	博士論文研究2	1③④	3			9	9	2	4		
	博士論文研究3	2①②	3			9	9	2	4		
	博士論文研究4	2③④	3			9	9	2	4		
	博士論文研究5	3①②	3			9	9	2	4		
	博士論文研究6	3③④	3			9	9	2	4		

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・専任教員から兼任教員へ変更の理由により、「特別講義」「海外実地研修2」「海外研修演習2」の配置教員数を変更。
- ・教授追加、准教授追加の理由により、「博士論文研究1～6」の専任教員等を「教授8」から「教授9」、「准教授7」から「准教授9」、「講師3」から「講師2」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	6 科目	0 科目	12 科目	6 科目 [0]	6 科目 [0]	0 科目 [0]	12 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡			
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡				
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡				
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡				
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡				
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	生命農学研究科 動物科学専攻		25 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科全体	
	生命農学研究科 動物科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0	0		
	計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0	0		
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊	大学全体					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	9,229 ㎡	弓道場，プール（25m×7コース），陸上競技場（400mトラック），テニスコート（11面），野球場（1面），相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場（各1か所）							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を，申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合，複数の様式に分ける必要はありません。なお，「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を，その他の項目は AC 対象学部等の数値を記入してください。）

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は，その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「（5）図書・設備」については，上段に完成年度の予定数値を，下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては，変更部分を赤字で見え消し修正するとともに，その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお，昨年度の報告において赤字で見え消した部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 <u>（博士前期課程）</u>	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
<u>（博士後期課程）</u>	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.11	平成7年度		
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.14	平成7年度		
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東 区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハ リテーション療法 学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東 区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハ リテーション療法 学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>情報・通信工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.75		
<u>機械システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	14	—	28	博士(工学)	0.53		
<u>マイクロ・ナノ機械理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.56		
<u>航空宇宙工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	1.06		
<u>エネルギー理工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	博士(工学)	0.50		
<u>総合エネルギー工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	4	—	8	博士(工学)	0.87		
<u>土木工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.61		
<u>生命農学研究科</u> <u>生物圏資源学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
<u>(博士後期課程)</u>	3	—	—	—	博士(農学)	—		平成30年より学生募集停止

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	44	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) -① 担当教員表

<名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	束村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論 3 多文化共生特論 4 多文化共生特論 5 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修 2 海外研修演習 2 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	堀尾 文彦 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	本道 栄一 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	束村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論 3 多文化共生特論 4 多文化共生特論 5 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修 2 海外研修演習 2 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	松田 洋一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	吉村 崇 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
兼任	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	准教授	大川 妙子 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	石川 明 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	村井 篤嗣 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	阿部 秀樹 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	三浦 健 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	上野山 賀久 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	大森 保成 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	鈴木 孝幸 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	准教授	松山 秀一 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
兼任	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
兼任	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月>
		海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	小林 美里 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	水口 智江可 <平成30年4月>
		博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	後藤 麻木 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	助教	塚田 光 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	山縣 高宏 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	後藤 麻木 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	山田 早人 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

平成30年4月1日 鈴木孝幸准教授、松山秀一准教授教授就任。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
3	2	5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
8	8	3	4	23	9	9	3	4	25	8	8	3	4	23
(9)	(9)	(3)	(4)	(25)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
23	0	0			24	0	1			23	0	0		
(24)	(0)	(1)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上 記（C））の教員 のうち、定年を延 長して採用する 教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 動物科学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しが迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中

 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。

○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。

○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。

○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601

愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(コウヅキ マサヒロ) 上月正博 (平成30年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

研究科長	(カワキタ カズヒト) 川北 一人 (平成27年4月)		
副研究科長	(ツチカワ サトル) 土川 覚 (平成28年4月)		
副研究科長	(シモムラ ヨシハル) 下村 吉治 (平成27年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命農学研究科 応用生命科学専攻 (博士後期課程) 博士(農学)	農学関係	3 年	17 人	51 人	基礎となる学部等 農学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	17 (-) [-]								0.64倍	
志願者数	11 (-) [-]									
受験者数	11 (-) [-]									
合格者数	11 (-) [-]									
B 入学者数	11 (-) [-]									
入学定員超過率 B/A	0.64									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	11 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	11人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	11人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命農学研究科 応用生命科学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1-2-3 ①②③④	1								8
	多文化共生特論3	1①②③④	1			1					
	多文化共生特論4	2①②③④	1			1					
	多文化共生特論5	3①②③④	1			1					
	海外実地研修2	1-2-3 ①②③④	1			1	2	1			
	海外研修演習2	1-2-3 ①②③④	1			1	2	1			
	博士論文研究1	1①②	3			16	16	7	7		
	博士論文研究2	1③④	3			16	16	7	7		
	博士論文研究3	2①②	3			16	16	7	7		
	博士論文研究4	2③④	3			16	16	7	7		
博士論文研究5	3①②	3			16	16	7	7			
博士論文研究6	3③④	3			16	16	7	7			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	特別講義	1-2-3	1			4					9
	多文化共生特論3	1-2-3	1								1
	多文化共生特論4	1-2-3	1								1
	多文化共生特論5	1-2-3	1								1
	海外実地研修2	1-2-3	1								4
	海外研修演習2	1-2-3	1								4
	博士論文研究1	1①②	3			19	19	8	7		
	博士論文研究2	1③④	3			19	19	8	7		
	博士論文研究3	2①②	3			19	19	8	7		
	博士論文研究4	2③④	3			19	19	8	7		
博士論文研究5	3①②	3			19	19	8	7			
博士論文研究6	3③④	3			19	19	8	7			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員から兼任教員へ変更により、「特別講義」「多文化共生特論3～5」「海外実地研修」「海外研修演習2」の配置教員数を変更。
 ・教授追加、准教授追加、助教から講師への昇格の理由により、「博士論文研究1～6」の専任教員等を「教授16」から「教授19」、「准教授16」から「准教授19」、「講師7」から「講師8」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	6 科目	0 科目	12 科目	6 科目 [0]	6 科目 [0]	0 科目 [0]	12 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡			
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡				
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡				
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡				
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡				
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	生命農学研究科 応用生命科学専攻		48 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	点	点	点				
	生命農学研究科 応用生命科学専攻	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0		
計	110,852 [50,831] (112,218 [50,997])	4,325 [1,354] (4,378 [1,385])	21,081 [21,009] (20,848 [20,776])	116 [14] (115 [14])	0 0	0 0			
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					大学全体	
	24,829 ㎡	2,031 席	3,140,500 冊						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	9,229 ㎡	弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を, 申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を, その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消した部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延) がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.05	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.09	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	270 76	学士(情報学)	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	76	学士(情報学)	0.97	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	118	学士(情報学)	1.08	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.07	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.02	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				1360					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		
<u>化学生命工学科</u>	4	99	—	198	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>物理工学科</u>	4	83	—	166	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>マテリアル工学科</u>	4	110	—	220	学士（工学）	1.00	平成29年度		
<u>電気電子情報工学科</u>	4	118	—	236	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>機械・航空宇宙工学科</u>	4	150	—	300	学士（工学）	1.03	平成29年度		
<u>エネルギー理工学科</u>	4	40	—	80	学士（工学）	1.02	平成29年度		
<u>環境土木・建築学科</u>	4	80	—	160	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
<u>人文学専攻</u> <u>（博士前期課程）</u>	2	104	—	208	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.05	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
<u>（博士後期課程）</u>	3	61	—	122	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.83			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.70	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.79		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.76	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	0.97		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.84	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.64		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.53	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	1.05	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.53		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.35	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.66		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学) 修士(学術)	0.85	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	1.00		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<u>複雑系科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	36	—	72	修士(情報学)	1.24	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.68			
<u>社会情報学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	5	—	10	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
<u>心理・認知科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	15	—	30	修士(情報学)	0.43	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	7	—	14	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.99			
<u>情報システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	32	—	64	修士(情報学)	1.01	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.71			
<u>知能システム学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	29	—	58	修士(情報学)	1.15	平成29年度		
<u>(博士後期課程)</u>	3	10	—	20	修士(学術) 修士(情報学) 修士(学術)	0.90			
理学研究科							昭和28年度		
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	66	—	132	修士(理学)	1.11			
<u>(博士後期課程)</u>	3	30	—	90	博士(理学)	0.82			
物質理学専攻							平成7年度		
<u>(博士前期課程)</u>	2	63	—	126	修士(理学)	1.14			
<u>(博士後期課程)</u>	3	22	—	67	博士(理学)	0.66			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.11	平成8年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.31			
<u>名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻</u> (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成28年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	620	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度		
<u>名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.37	平成27年度		
<u>名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻</u> (博士課程)	4	4	—	8	博士(医学)	0.50	平成29年度		
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.00	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.94	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.27			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.25	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.51			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.55	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.25			
工学研究科							昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—			平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.37			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.24			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
<u>生命分子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	28	—	56	修士(工学)	1.07	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	6	—	12	博士(工学)	1.16		
<u>応用物理学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.95	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.33		
<u>物質科学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	39	—	78	修士(工学)	0.97	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.27		
<u>材料デザイン工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.06	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.25		
<u>物質プロセス工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	35	—	70	修士(工学)	1.26	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.60		
<u>化学システム工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.14	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	8	—	16	博士(工学)	0.37		
<u>電気工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	34	—	68	修士(工学)	1.09	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	9	—	18	博士(工学)	0.88		
<u>電子工学専攻</u> <u>(博士前期課程)</u>	2	47	—	94	修士(工学)	1.20	平成29年度	
<u>(博士後期課程)</u>	3	13	—	26	博士(工学)	0.84		

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.22	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.75			
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.01	平成29年度		
(博士後期課程)	3	14	—	28	博士(工学)	0.53			
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.17	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	0.56			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	16	博士(工学)	1.06			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.16	平成29年度		
(博士後期課程)	3	5	—	10	博士(工学)	0.50			
総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成29年度		
(博士後期課程)	3	4	—	8	博士(工学)	0.87			
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.08	平成29年度		
(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(工学)	0.61			
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—			
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	27	修士(農学)	1.11	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.42			
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	30	修士(農学)	1.16	平成30年度		
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(農学)	0.33			
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(農学)	1.00	平成30年度		
(博士後期課程)	3	7	—	7	博士(農学)	0.28			
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(農学)	0.95	平成30年度		
(博士後期課程)	3	17	—	17	博士(農学)	0.64			
名古屋大学・カセサ ニ卜大学国際連携生 命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	0.50	平成30年度		

大学の名称	名古屋大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<u>国際開発研究科</u>							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成30年より学生募集停止
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度		平成30年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
<u>国際開発協力専攻</u> (博士前期課程)	2	44	—	44	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度		
(博士後期課程)	3	22	—	22	博士(国際開発学)	0.63			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.01	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.43			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.83	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	73	博士(環境学) 博士(理学)	0.61			
都市環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.36			
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.45			
社会環境学専攻							平成13年度		
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.95			
(博士後期課程)	3	13	—	44	修士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.56			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—	平成15年度	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学) 修士(学術) 博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—		
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.09	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表
 <名古屋大学>

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	北島 健 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	服部 束穂 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	北 将樹 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	下村 吉治 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	牧 正敏 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	松田 幹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	吉村 徹 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	前島 正義 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	青井 啓悟 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小鹿 一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	西川 俊夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	前島 正義 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	浅川 晋 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	榊原 均 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小俣 達男 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	小林 哲夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	森 仁志 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	藤田 祐一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	森田(寺尾) 美代 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	中野 秀雄 <平成30年4月>
		特別講義 博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	教授	森 仁志 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
兼任	教授	芦苺 基行 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	一柳 健司 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	池田 素子 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	山本 直之 <平成30年4月>
		特別講義

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
専	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
専	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 彰 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	土川 覚 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	原田 一宏 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	東村 博子 <平成30年4月>
		多文化共生特論3 多文化共生特論4 多文化共生特論5
兼任	教授	大蔵 聡 <平成30年4月>
		特別講義 海外実地研修2 海外研修演習2
兼任	教授	江原 宏 <平成30年4月>
		特別講義
専	准教授	上口 智治 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	佐藤 ちひろ <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	中川 優 44 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	武田 真 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	小田 裕昭 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	柴田 秀樹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	灘野 大太 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	邊見 久 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	柴田 貴広 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	中崎 敦夫 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	野村 信嘉 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	村瀬 潤 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	石黒 澄衛 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	木村 眞 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	山篠 貴史 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	伊藤 正樹 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	岩崎 雄吾 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	准教授	MATURANA Andres Daniel <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月> 海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	安立 昌篤 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	木羽 隆敏 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
兼任	准教授	伊藤 香純 <平成30年4月> 海外実地研修 2 海外研修演習 2
兼任	准教授	榎原 大悟 <平成30年4月> 海外実地研修 2 海外研修演習 2
専	講師	伊藤 智和 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	北浦 靖之 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	安立 昌篤 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	近藤 竜彦 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6
専	講師	渡邊 健史 <平成30年4月> 博士論文研究 1 博士論文研究 2 博士論文研究 3 博士論文研究 4 博士論文研究 5 博士論文研究 6

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	中西 洋一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	金丸 京子 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	兒島 孝明 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	講師	新美 友章 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
兼任	講師	井上 直子 <平成30年4月>
		海外研修研修2 海外研修演習2
専	助教	大島 健司 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	高原 照直 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	DAMNJANOVIC Jasmina <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	中西 洋一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	橋本(杉本) 美海 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	前尾 健一郎 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	前田 真一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	橋本(杉本) 美海 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	前尾 健一郎 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6
専	助教	前田 真一 <平成30年4月>
		博士論文研究1 博士論文研究2 博士論文研究3 博士論文研究4 博士論文研究5 博士論文研究6

- (注)
- 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して
 - 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・平成30年4月1日 木羽隆敏准教授就任。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
6	4	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
18	19	7	7	51	19	19	8	7	53	18	19	7	7	51
(19)	(19)	(8)	(7)	(53)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
51	0	0			53	0	0			51	0	0		
(53)	(0)	(0)								[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{51}{51} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{53} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{\#REF!} = \#REF! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命農学研究科 応用生命科学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内に教務委員会を設置した。同委員会は各学科、各専攻等からの代表によって構成されており、各学科および専攻に情報を展開する体制を敷いた。 ・教務委員会の下に、教育プログラム検討WGを設けて学部および大学院カリキュラムの進捗状況のチェックや見直しを迅速にはかれるようにした。 ・教務委員会の下に、入試検討WGを設けて学部および大学院の入試体制について検討するようにした。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会は、毎月1回開催する。各学科、各専攻等からの代表が参加。副研究科長がオブザーバー参加 ・教育プログラム検討WGも、ほぼ毎月1回開催する。研究科長、副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 ・入試検討WGは、不定期開催。副研究科長、各学科、各専攻からの代表が参加。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では、教育制度全般について検討・改善するための取組を分掌 ・教育プログラム検討WGでは、学部および大学院のカリキュラム、教育内容等について審議する。 ・入試検討WGでは、入学制度等について審議する。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会の実施 ・専門領域ごとでの授業に対するFD実施 ・学業の成果達成度や満足度に関する学生アンケートの実施および結果検証 ・教員のための研修会開催 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教授会での各種説明会は、適宜実施する ・専門領域ごとでの授業に対するFDは、春期・終期各1回開催 ・教員のための研修会は年度内に少なくとも1回開催

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・現在 企画立案中

 - d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - ・現時点では未実施のため、該当なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 - ・各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

 - b 教員や学生への公開状況，方法等
 - ・授業評価アンケートの結果は教務学生係が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今回の改組は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学部フロンティア」として、「食・環
また、そのねらいは以下のとおりである。
○農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。
○専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。
○学部生の約75%が大学院に進学する状況（大学のユニバーサル化）及び留学生の増加・国際プログラムの進展（大学のグローバル化）に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

・国立大学法人評価における年度実績報告書を作成し、例年6月末までに文部科学省あて提出している。
・報告書及び評価結果を大学ホームページ上に公開する予定である。

③ 認証評価を受ける計画

・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有) ・ (無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30 年 6 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。